

Ⅱ-① あいサポーター研修会を開催しました。(中学校)

「あいサポート運動」という取り組みをご存じですか？

これは、様々な障がいの特性を理解し、障がいのある人に温かく接するとともに、障がいのある人が困っているときに「ちょっとした手助け」を行うことにより、誰もが暮らしやすい地域社会をつくっていく運動です。平成21年11月に鳥取県で始まり、現在、全国に大きな広がりを見せています。

そして、2月20日(木)の午後、中学1、2年生と教職員、希望した保護者の方々を対象に「あいサポーター研修会」を実施しました。この研修会は、障がいのある方など困っている人がいれば手助けをするといった思いやりのある行動を行う「あいサポーター」を養成する研修会です。香川県での「あいサポーター」の登録者数はとても少なく、本校では生徒会を中心に「あいサポート運動」の取り組みを始め、この研修会の開催を要望しました。この研修会では、すべて生徒会が企画・準備し、運営も行いました。

研修会では、保護者の方々も含めて245名が参加し、全国国立大学附属学校PTA連合会顧問である竹川裕之氏が講師としてご講話いただきました。様々な障がいの特性を映像を見ながら学んだり、車椅子体験をして手助けする際のポイントを学んだりできました。「ヘルプマーク」の存在も教えていただきました。

研修者全員には、サポーターのシンボルである「あいサポートバッジ」が渡されました。障がいのある方を支える「心」を2つのハートを重ねることで表現したものです。そして、誰もが安心して生活できる共生社会の実現に向け、研修を受けた生徒だけでなく、保護者や教職員も「あいサポーター」としての自覚と実践意欲をもつことができた価値ある時間となりました。



①生徒会長からのあいさつ



②生徒会副会長からの講師紹介



③竹川裕之先生の講話



④1, 2年生が研修会に参加



⑤全附P連の事務局の方々も参加



⑥優しい声をかけながら車椅子体験



⑦車椅子体験で気づいたことを振り返る



⑧最後はみんなで「あいサポーター宣言」

2 参加者の感想

<生徒の声>

- ・ 私は、共生社会という言葉を知ったときに、ある図書館の司書の方を思い出しました。車椅子で手にもサポーターのようなものを付けて仕事をされています。そんな司書の方にも助けてもらうことがあります。障がいの有無に関係なく、互いを支えることができるというのは、こんなことを言うのだと気づかされました。自分の身近に共生社会の芽があるのだと実感しました。
- ・ このあいサポーター研修を受けて、今までは障がいのある人とあまり関わりがなかったので、どう対応したらいいかわからなかったけど、それぞれの障がいを理解し、適切な対応をすることが大切だと分かりました。これからそういう場面に出会ったときは、この研修で学んだことを思い出し、生かしたいです。
- ・ 自分自身が障がいについて「知る」「理解する」ことで障がいのある人を助けることができるということが分かりました。自分があいサポーターであることに自覚と責任を持ち、障がいがある人もない人も隔たりなく生きる「共生社会」をつかっていきたいです。
- ・ 香川県にあいサポーターの方が3名しかいないのは、とても残念なことです。私もしっかりと知識を得て、立派なあいサポーターになりたいです。そして、日本全国が思いやりのある国になってほしいです。
- ・ この研修を受けて、障がいはとても多様な種類があり、そしてたくさんの方がいることを知って、自分たちも完璧なわけがないので障がいがある人と同じようなものだと考えることができました。これからは、困っている人がいれば、優しく声をかけられるようにしたいです。
- ・ 今まであまり障がいのある人と接したりすることがなかったので、バスやJRでは特に気にせず席に座っていた感じだったけれど、今日のあいサポーター研修を受けて、これからはバスやJRを利用するときには、周りの人をしっかり見てから席に座ったりしようと思いました。
- ・ 他人事だと思わず、障がいについて詳しく知るきっかけになりました。手話はいつでも使えると思うので、覚えようと思います。日本から障がい者差別がなくなればいいと思いました。
- ・ あいサポーターの「あい」には、「I(私)」という意味も含まれていることを学んだので、自分も行動し、少しでも何かを起こせるようにしていきたいです。

<保護者の声>

- ・「障がいがあり、外出できない」と考えるのではなく、「介助を行ったり車椅子を使ったりすることで外出できる」と考えるなど、様々な角度から考えることで「〇〇すればできる」と前向きに捉えることができ、暮らしやすい社会につながると思いました。高齢化社会をむかえ、共生社会をみんなで考えていくことは必要であると思いました。そして、子どもとともに聴講したことにより、意見交換できました。学んだ手話を子どもと復習して、学びを共有できました。
- ・ 健常者も障がい者も、しっかりコミュニケーションがとれれば、誰もが暮らしやすい社会になるのではないかと思います。
- ・ 私は、自分の子どもが障がい者であり、自分も病気で一時的に車椅子に乗るまで障がいのことは無縁で無知でした。経験することは難しいかもしれませんが、知ることはできます。今回、若い生徒さんたちにこのような機会を用意していただき、ありがたく思います。あいサポート運動がもっと日本に広がってほしいと思います。
- ・ 「ヘルプマーク」を初めて知りました。「逆ヘルプマーク」もいいと思います。なかなか声をかけられない現状。「ヘルプマーク」の方には声をかけやすくなり、サポートの必要な方も「逆ヘルプマーク」をつけている方に声をかけやすくなると思います。「逆ヘルプマーク」を考えた小学生の柔軟な考えに驚きました。
- ・ たくさんの方が障がいを理解することが、誰もが住みよい社会をつくると思っています。東京パラリンピックに向けて、私も何かお手伝いできたらいいなと思いました。
- ・ 4つのバリアの中の心のバリアをはずすことを、小学校や幼稚園の時からもっと教えてあげたらいいと思います。今までは声をかけにくかったですが、どのように声をかけたらよいかと、紙を使って説明すればよいということが分かり良かったです。
- ・ あいサポート運動という言葉は何度も聞いたことがありましたが、研修を受けて理解を深めることができました。子どもたちが、今、この研修を受けることができ良かったと思います。

<教職員の声>

- ・ 手話や車椅子などの体験活動があって、楽しみながら学ぶことができました。今回の学習を通して温かい人間関係づくり、社会づくりに一層努めていきたいと思えます。
- ・ 私たちが何気なく過ごしている生活の中で、当たり前のようにしていることが、障がいのある人にとってみると困難に感じるものがたくさんあるのだと、改めて感じさせられました。
- ・ 自分がとるべき行動を改めて考えることができました。また、映像を入れながら丁寧に話をしていただきありがとうございました。生徒がたくさん振り返りを書いている様子を見て、生徒も色々と考えることができたと思えました。
- ・ 相手がうまくできないときにどう寄り添ってあげるべきなのか、そのような子どもと接するときには何を言って、何を見守るべきなのか、今後もしっかりと考えていきたいと思えます。
- ・ 障がいのある・ないに関係なく、みんな大切な存在だという考え方が大切なのだと思います。また、障がいのある人たちに対して関心をもつこと、知ることサポートの仕方が分かり、実行することができると実感しました。今日学んだことを、子どもたちとともに生活へつなげていけるよう、声かけをしていきたいと思えます。

共生社会実現へ



「あいサポート」広げよう

付属坂出中 車いす講習や講演

障害の有無に関係なく暮らしやすい共生社会の実現を目指す「あいサポート運動」の研修会が20日、坂出市青葉町の付属坂出中学校(高木由美子校長)であった。同運動を県内に広げる第一歩として、同校の生徒会が初めて企画。1、2年生210人は講演などを通じて、障害者を取り巻く環境や車いすの使い方などに理解を深めた。

車いすの講習では、生徒が利用者や介助者の役に分かれて使い方を実践。「お困りですか?」と声を掛けて手助けが必要かを確認したり、「曲がりますよ」と前もって動作を伝えたりと、利用者を不安にさせない配慮が大切なことを学んだ。介助者役をした2年の田岡歩さん(14)は「乗っている人の気持ちを考えながら押すのは難しく、とても勉強になった」と話した。

同運動は2009年に鳥取県でスタート。全国国立大学付属学校PTA連合会も運動拡大に取り組んでおり、運動を支える「あいサポート」は全国で約52万人に増加。ただ県内での認知度は非常に低いのが現状という。

研修会では冒頭、生徒会長の2年大内優さん(14)が「暮らしやすい社会のために何を実践できるか、みんな考えていきたい」と呼び掛けた。

講演は、同連合会顧問の竹川裕之さんが「障がいを知り、共に生きる」と題し

利用者の目線に立った車いすの使い方を実践する生徒らに「坂出市青葉町、付属坂出中